

第26回（令和4年度第2回）
セーフコミュニティ 防犯対策委員会

《会 議 次 第》

日時：令和4年12月20日（火） 16:00～

場所：えーるピア久留米

1. 議題

（1）事前指導

（2）正副委員長選出



※会議後に、2階ギャラリーにて記念撮影を行います。

セーフコミュニティ防犯対策委員会 委員名簿

(任期：令和7年7月31日まで)

	団体等名称	委員名	役職
1	久留米市老人クラブ連合会	荒川 良子	女性部会員
2	久留米市防犯協会連合会	猪飼 廣幸	副会長
3	うきは防犯協会田主丸支部	倉富 義己	副会長（田主丸支部長）
4	久留米市校区暴力追放推進協議会連絡会議	渡邊 浩二	会長
5	久留米市校区まちづくり連絡協議会	籾 敏博	幹事（高良内校区会長）
6	久留米男女共同参画推進ネットワーク	堀田 富子	会長
7	久留米市中学校長会	古賀 一英	筑邦西中学校校長
8	久留米市小学校長会	九重 真由美	草野小学校校長
9	久留米市小・中学校PTA連合協議会	金谷 正永	西国分小PTA会長
10	久留米市校区青少年育成協議会連絡会議	江藤 孝子	理事
11	久留米商工会議所女性会	江崎 慶子	参与
12	文化街さくら会	古賀 三貴	会長
13	久留米警察署	松岡 誠倫	生活安全課長
14	（一社）久留米銀行協会	首藤 有一	常務理事
15	久留米市子ども未来部青少年育成課	原 稔治	課長
16	久留米市都市建設部道路整備課	岡部 健一	課長
17	久留米市教育部学校教育課	古賀 友理子	学務主幹
18	久留米市協働推進部安全安心推進課	今村 浩樹	課長
19	久留米市協働推進部男女平等推進センター	酒井 香	所長
20	久留米市協働推進部消費生活センター	吉村 栄作	所長

事務局：協働推進部安全安心推進課

プロフィール

審査員

◆チョ・ジュンピル(趙 竣秘)◆

- 医学博士
- アジョー大学救急医療部(韓国 水原市) 教授
- 地域安全向上センター(同上)^(*) センター長
- 国際セーフコミュニティネットワーク 副理事長
- セーフコミュニティ公認認証審査員
- “International Distinguished Safe Community Career Award”受賞(2010年)

(*) セーフコミュニティ支援センター・インターナショナルセーフスクール支援・認証センター



1983年 延世大学医学部卒業後、外科医として経験を重ね、1996年より救急外科医となる。受傷による救急外来の患者の治療にあたるなかで治療だけでなく予防の重要性を感じるようになる。その後、アメリカでの研究時代にSCの概念に出会ったことをきっかけに韓国にSCの概念を紹介した。2000年に韓国で初めて水原市がSCを導入した際に支援したことをきっかけに、アジョー大学医学部に地域安全向上センター(韓国におけるSC支援センター・ISS支援及び認証センター)を設置した。

国際SCネットワークの副理事長、アジア地域SC支援センター連合の副理事長として国を越えてSC推進に尽力している。日本においても、ほとんどのSC推進自治体を訪問しており、事前指導や現地指導において、救命救急医としての豊富な経験を生かした支援をいただいている。

◆ワン・シュメイ(王 書梅)◆

- 博士(公衆衛生)
- 復旦大学公衆衛生学部(中国 上海市) 教授
- 国際セーフコミュニティネットワーク 理事
- セーフコミュニティ公認認証審査員



上海医科大学卒業し、公衆衛生において修士号を取得。上海体育研究所(学院)スポーツ医学部や上海医科大学での経験を経て、現在は、復旦大学公衆衛生学部において教授を務める。

2001年に、オランダにて「ヘルシーシティ」を研究した際にセーフコミュニティに関心をもって以来、セーフコミュニティに焦点を置いた研究及び教育を行っている。

国内においては、中国教育省の学校保健及び食の安全専門委員会のメンバーとして研究を進める。また、上海エリアの自治体等へセーフコミュニティ活動の支援及びコーディネートを行っている。

国際的には、日本をはじめ韓国、タイ、ベトナムなどにおいてセーフコミュニティ及びセーフスクールの認証審査の経験を持つ。

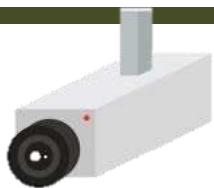
コーディネーター

◆ 白石 陽子 ◆

- 博士(政策科学)
- 一般社団法人日本セーフコミュニティ推進機構(JISC)代表理事
(セーフコミュニティ支援センター)
(インターナショナルセーフスクール認証センター)
- セーフコミュニティ公認認証審査員
- 立命館大学衣笠総合研究機構 研究員
- 韓国亜州(アジョー)大学 医学部 客員教授
- "International Distinguished Safe Community Career Award"受賞(2017)



立命館大学大学院政策科学研究科博士課程在学中に「セーフコミュニティ(SC)」に出会ったことをきっかけに、セーフコミュニティの発祥地であるスウェーデンのカロリンスカ研究所(医科大学)でセーフコミュニティを学ぶ。2008年にセーフコミュニティに関する研究により博士号(政策科学)を授与され、立命館大学の研究員としてセーフコミュニティの研究を進めた後、京都大学大学院医学研究科においてセーフコミュニティの研究を進める。2011年にセーフコミュニティ支援センターとして認証され、現在はセーフコミュニティ推進機構代表理事としてセーフコミュニティ活動の支援と研究に専念している。また、同年12月には、「インターナショナルセーフスクール」の認証センターとしても認証された。現在、13の自治体のSC活動を支援するとともに、セーフスクールの推進にも力を注いでいる。



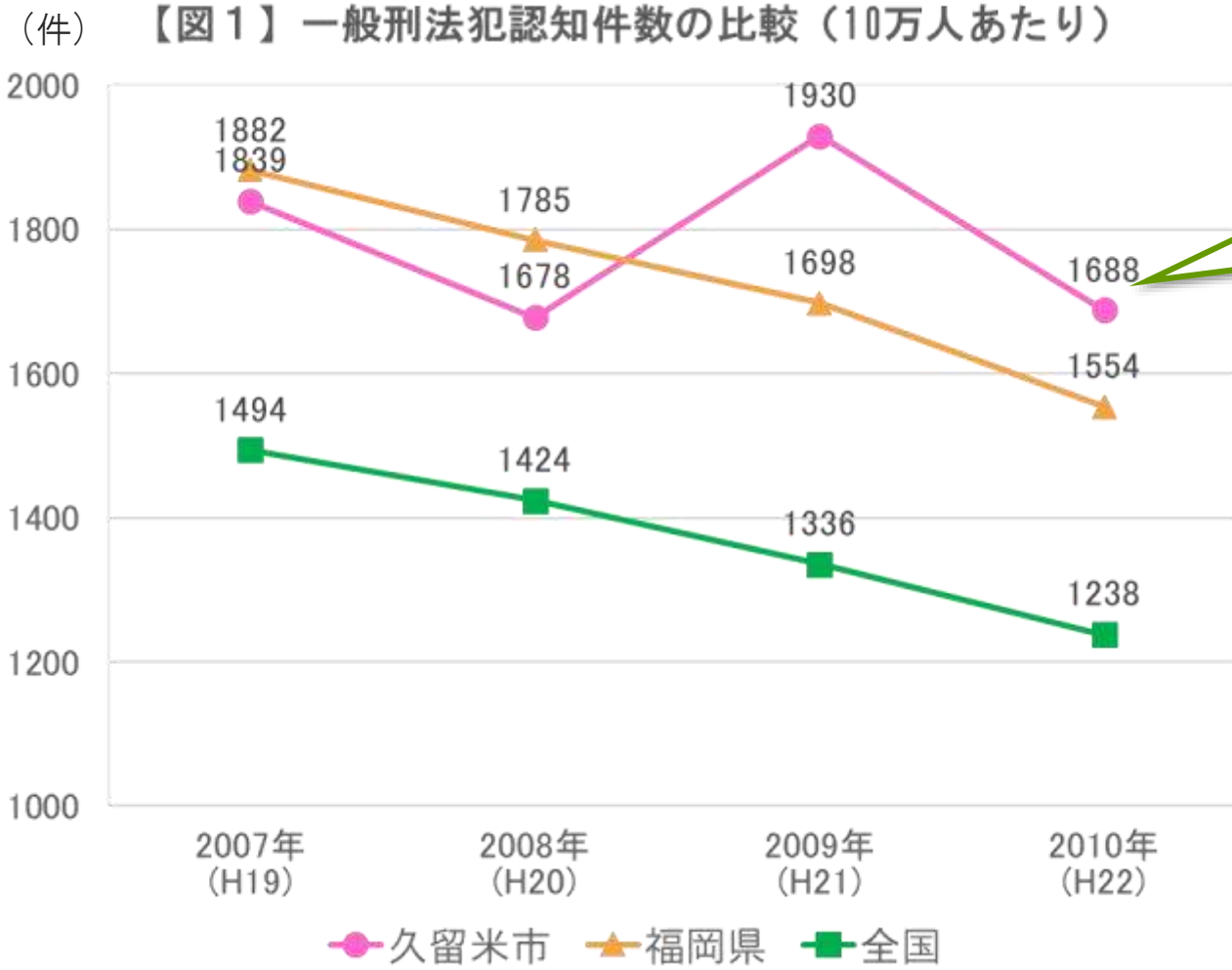
久留米市セーフコミュニティ 防犯対策委員会



発表日 2022年12月20日
発表者 防犯対策委員会委員長 猪飼 廣幸
所 属 久留米市防犯協会連合会

1-1.防犯対策委員会の設置の背景

※1



<出展:警察統計>

★客観的データ

<2011年取り組み開始時>

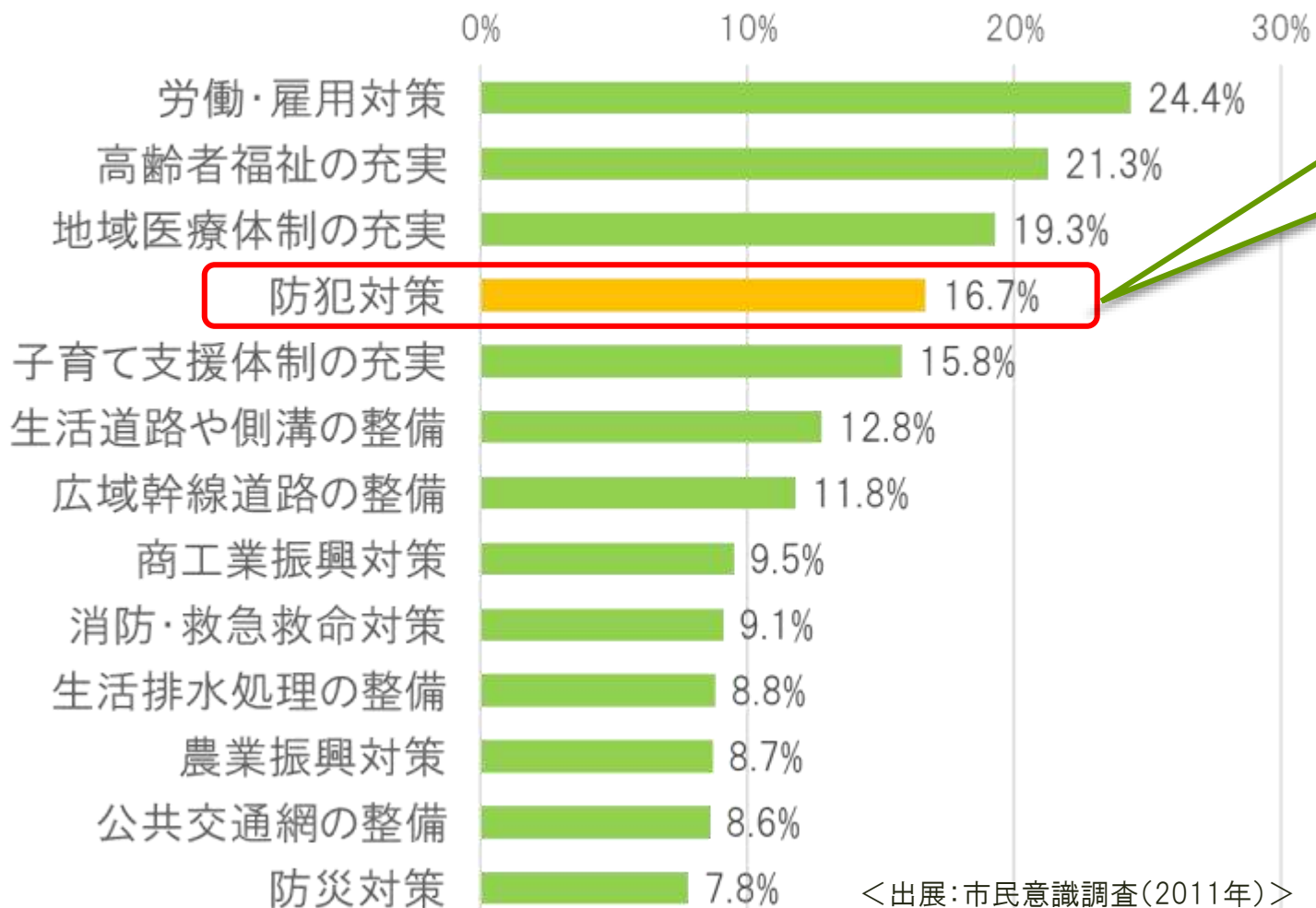
当時
長期的には減少傾向にあるものの、
2009年は認知件数が増加
国や県と比べ、高い水準

犯罪を減らすため
取り組みの強化が必要

**セーフコミュニティで
犯罪の予防を！**

1-2.防犯対策委員会の設置の背景

【図2】行政への要望で特に力を入れてほしいもの



★主観的データ

<2011年取り組み開始時>

当時
「**防犯対策に力を入れてほしい**」
行政施策33項目のうち、**第4位**

市民の要望意識は高く、
犯罪を不安に感じている！

**犯罪の予防・防犯力の向上で
市民の安心感が高まる！**

**2012年（H24）3月
防犯対策委員会設置**

2.防犯対策委員会の構成メンバー（2022年現在）

区 分	NO.	所 属
関係団体	1	久留米市老人クラブ連合会
	2	久留米市防犯協会連合会
	3	うきは防犯協会田主丸支部
	4	久留米市校区暴力追放推進協議会連絡会議
	5	久留米市校区まちづくり連絡協議会
	6	久留米男女平等推進ネットワーク
	7	久留米市中学校長会
	8	久留米市小学校長会
	9	久留米市小・中学校PTA連合協議会
	10	久留米市校青少年育成協議会連絡会議

区 分	NO.	所 属
関係団体	11	久留米市商工会議所女性会
	12	文化街さくら会
	13	（一社）久留米銀行協会
警察	14	久留米警察署（生活安全課）
行政機関	15	久留米市子ども未来部青少年育成課
	16	久留米市都市建設部道路整備課
	17	久留米市教育部学校教育課
	18	久留米市協働推進部安全安心推進課
	19	久留米市協働推進部男女平等推進センター
	20	久留米市協働推進部消費生活センター

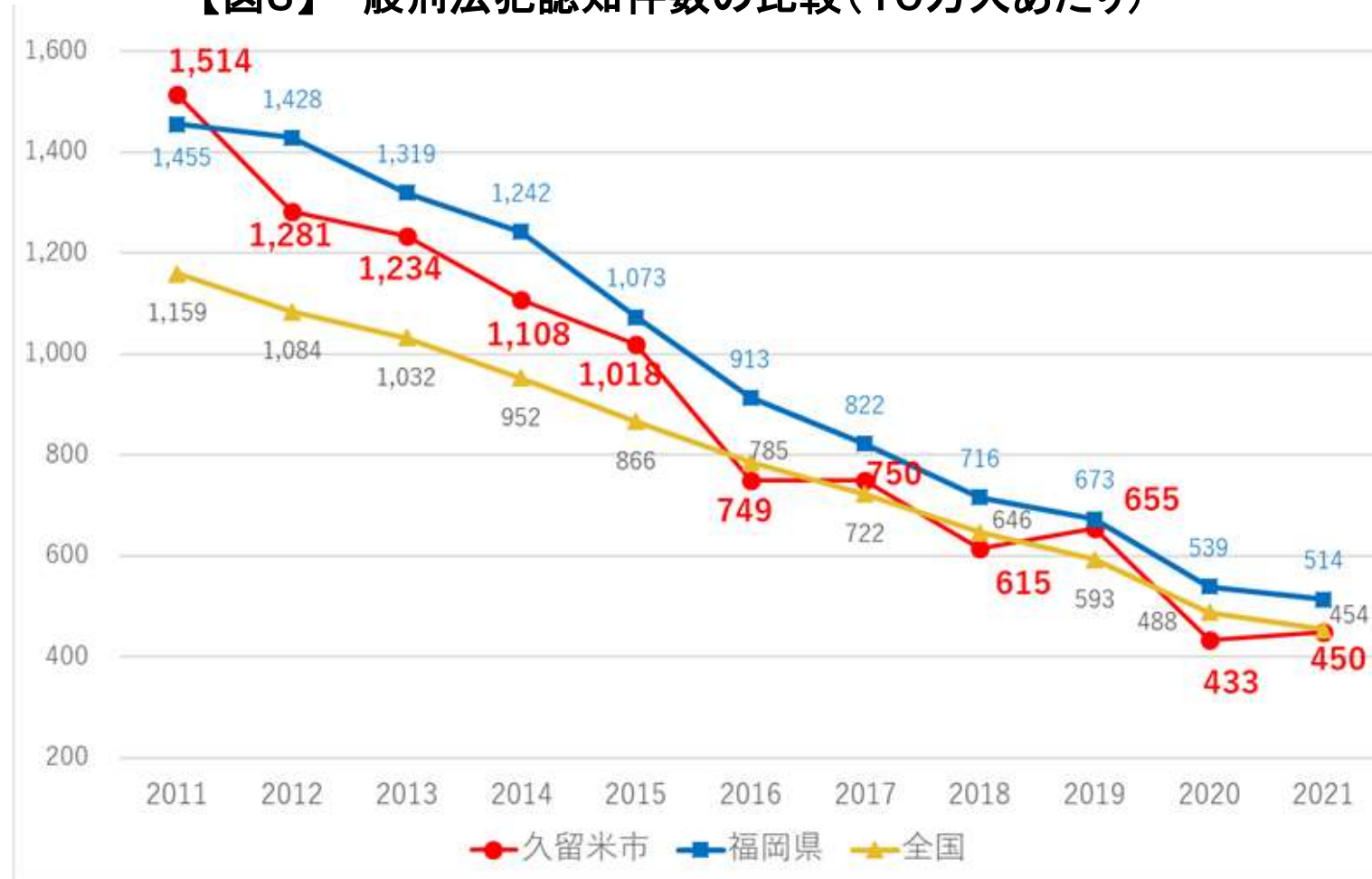
＜委員構成の見直し＞ 久留米市老人クラブ連合会を追加（2016年）
（一社）久留米銀行協会を追加（2022年）

3-1.データに基づく課題

「一般刑法犯」は減少傾向。国・県の水準を下回る傾向

【図3】一般刑法犯認知件数の比較(10万人あたり)

＜出展：警察統計＞



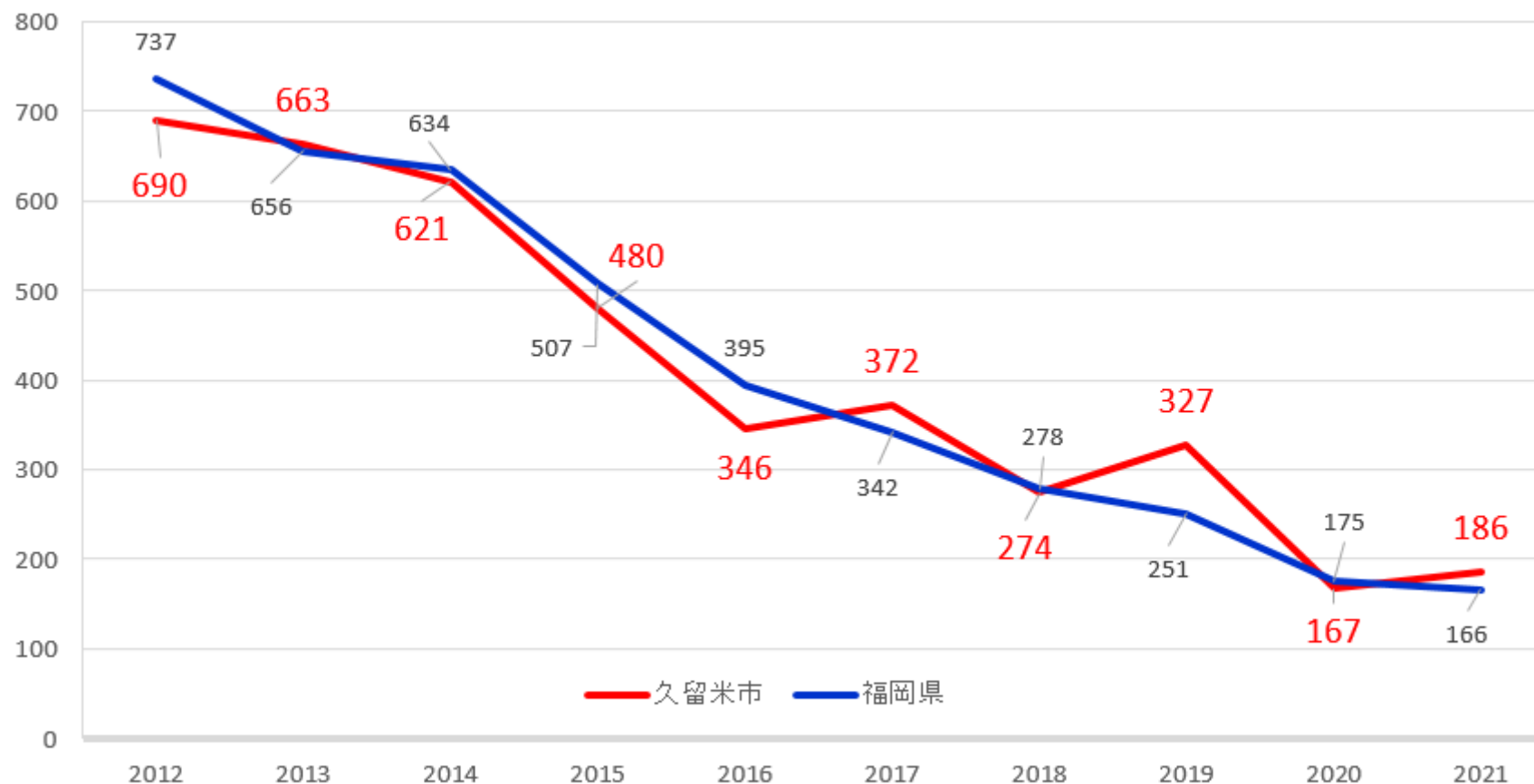
3-1.データに基づく課題

「街頭犯罪」は減少傾向も、近年は県の水準を上回る傾向

※2

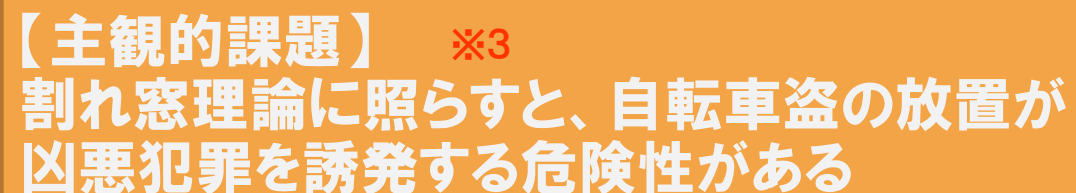
＜出展：警察統計＞

【図4】街頭犯罪認知件数の比較（10万人あたり）



街頭犯罪の中では「自転車盗」が最も多い

【図5】街頭犯罪認知件数



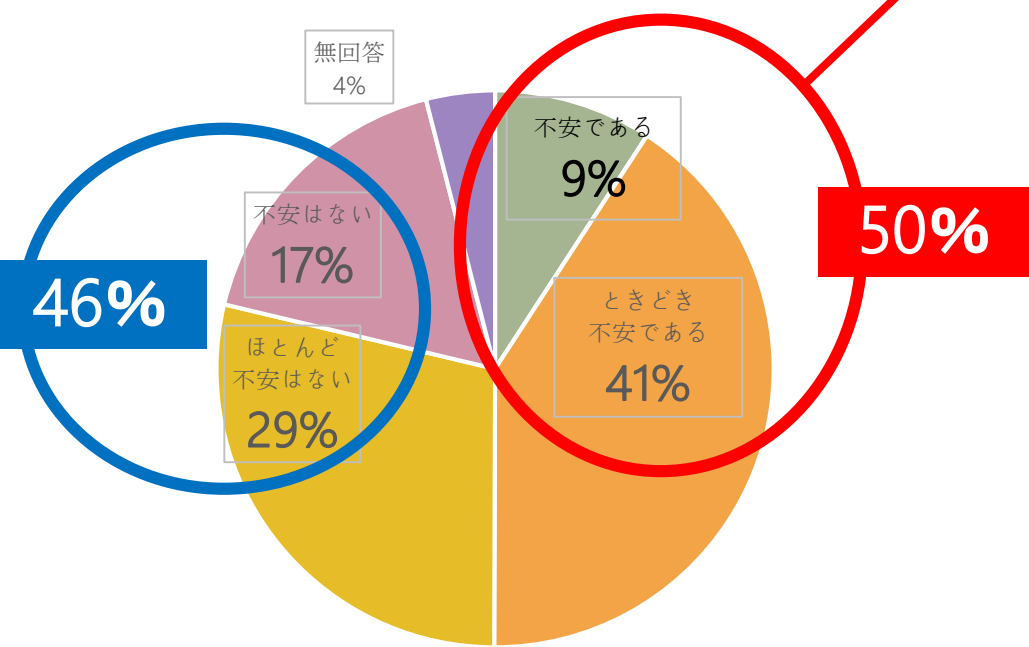
3-3.データに基づく課題

犯罪への不安を感じる人が、不安を感じない人を上回っている

< 出展：セーフコミュニティ実態調査 >

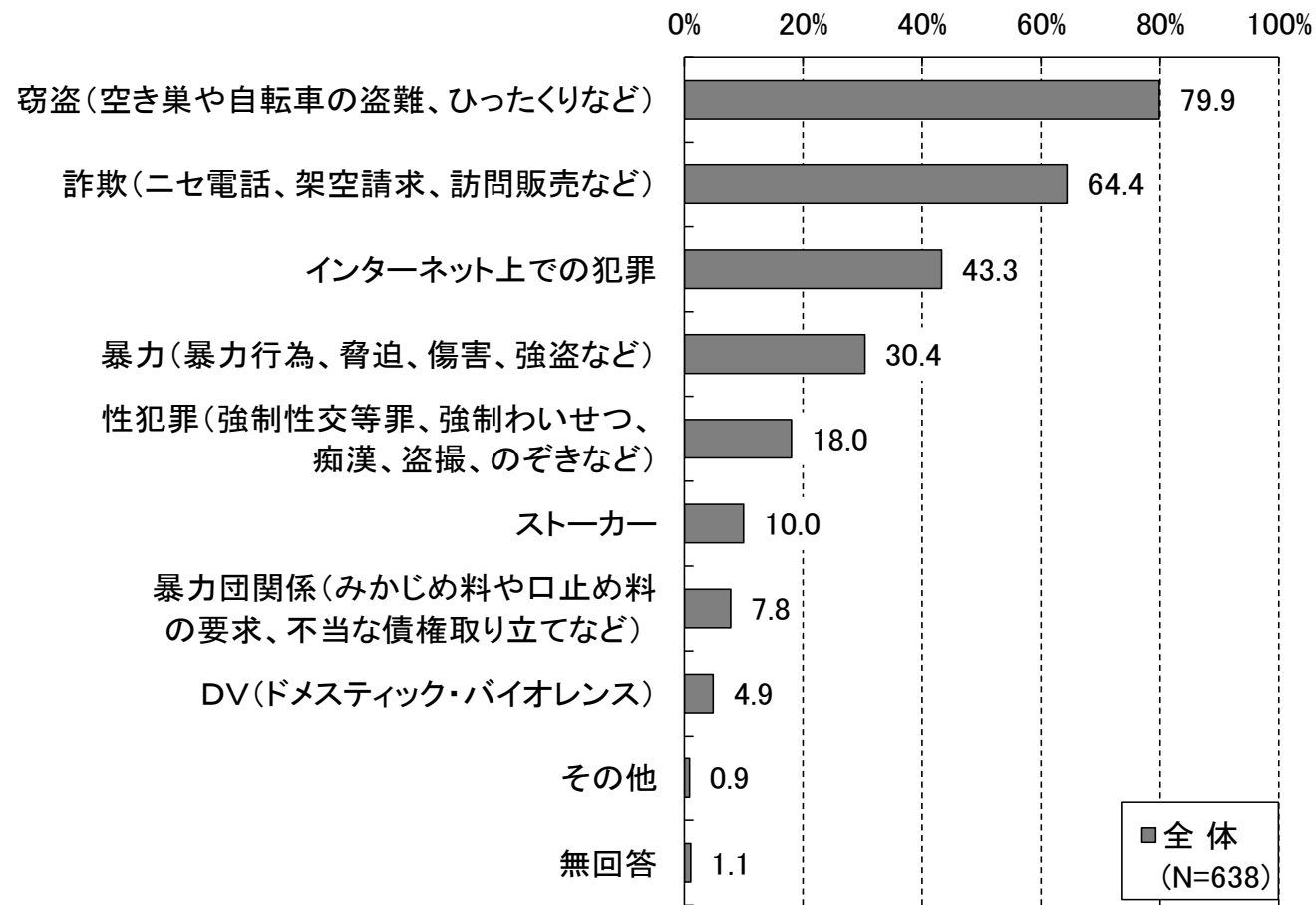
問：あなたは、生活の中で犯罪の被害にあうかもしれないという不安はありますか。

【図 6】 犯罪被害の不安



問：あなたが不安に感じる犯罪は何ですか。

【図7】

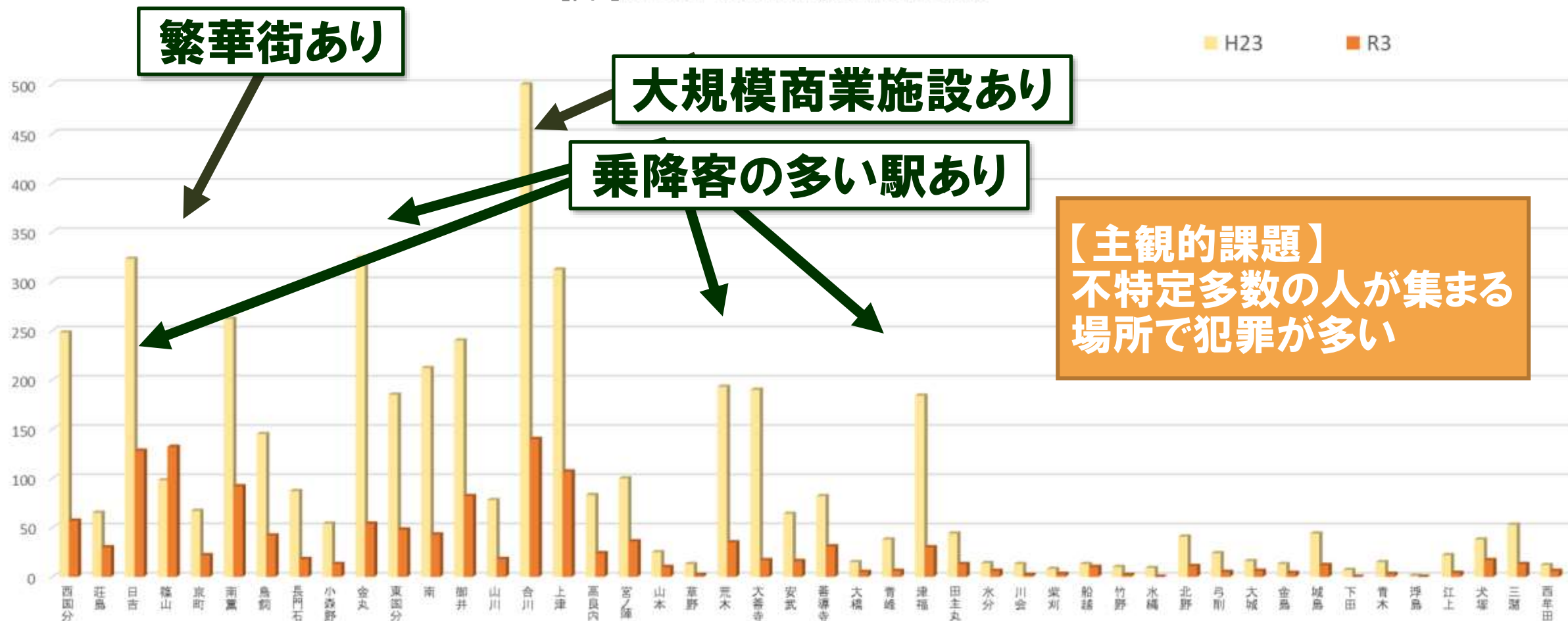


3-4.データに基づく課題

大型商業施設や乗降客の多い駅、繁華街周辺で犯罪が多く発生している

【図8】校区別一般刑法犯罪種別認知件数

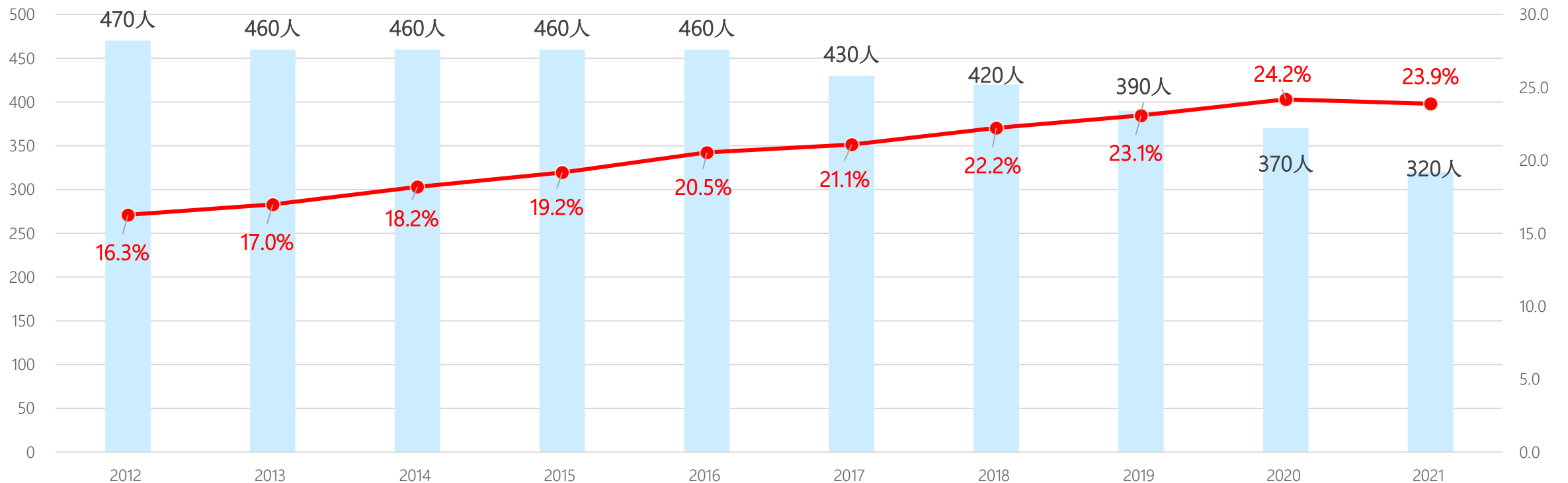
＜出展：警察統計＞



3-5.データに基づく課題

※4
市内に本拠を置く指定暴力団の構成員数は減少傾向にあるが、**県内に占める割合は増加**

【図9】指定暴力団構成員数と県内に占める割合



<出展:警察統計>

3-6.データに基づく課題

主に高齢者を狙ったニセ電話詐欺の被害が急激に増加

※5

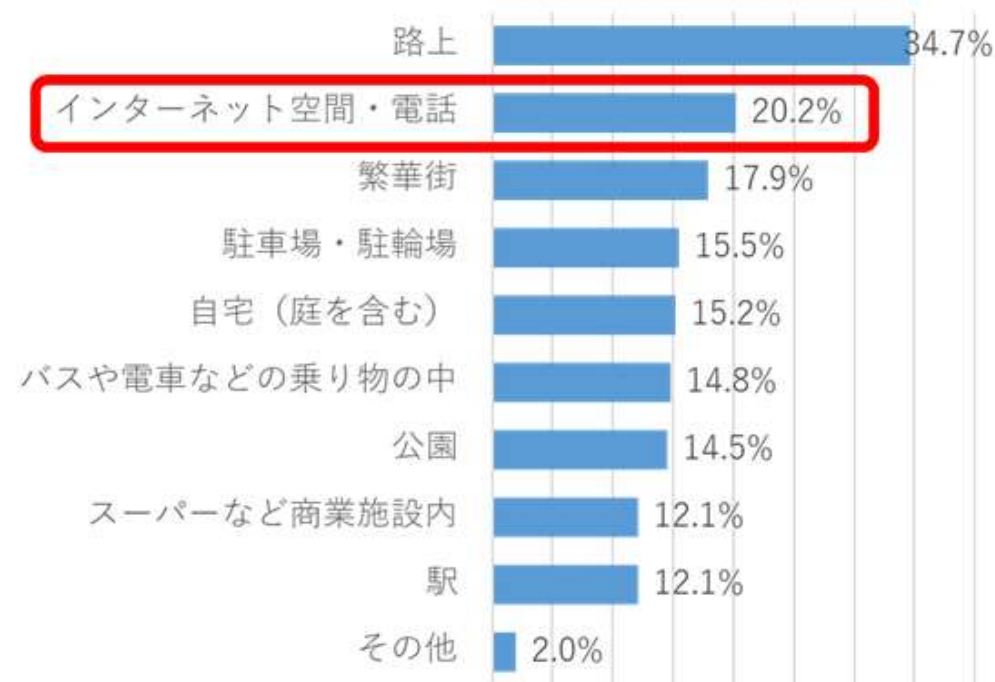
【図10】市内 ニセ電話詐欺の被害及び阻止件数

＜出展：警察統計＞



【図11】犯罪に巻き込まれるかもしれないと思う場所

＜出展：市政アンケートモニター＞



3-7.データに基づく課題

性犯罪認知件数は増減を繰り返している
「性犯罪」を不安に感じる女性が多い

【図12】 性犯罪認知件数（10万人あたり）

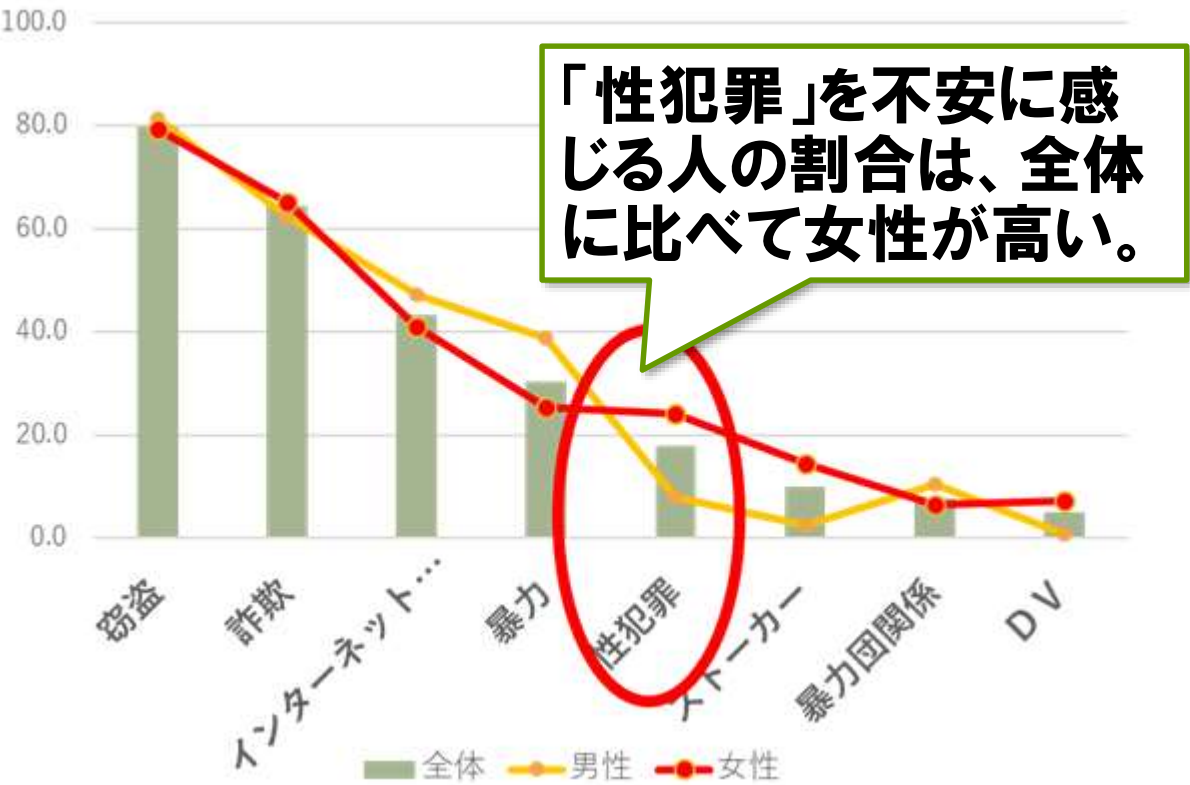


＜出展：警察統計＞

【図13】 福岡県性犯罪発生率全国順位

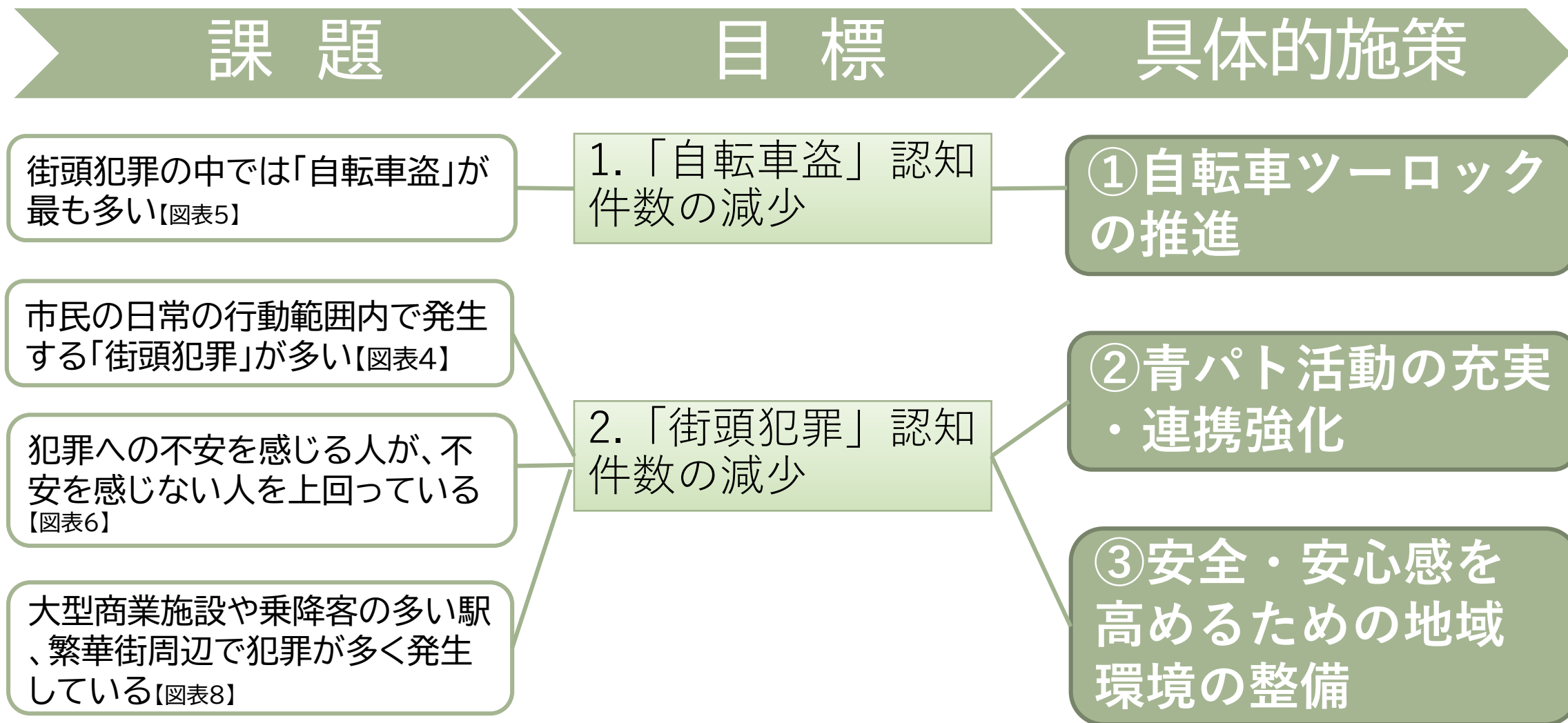
2017	2018	2019	2020	2021
第 2 位	第 2 位	第 5 位	第 8 位	第 7 位

【図14】 不安に感じる犯罪

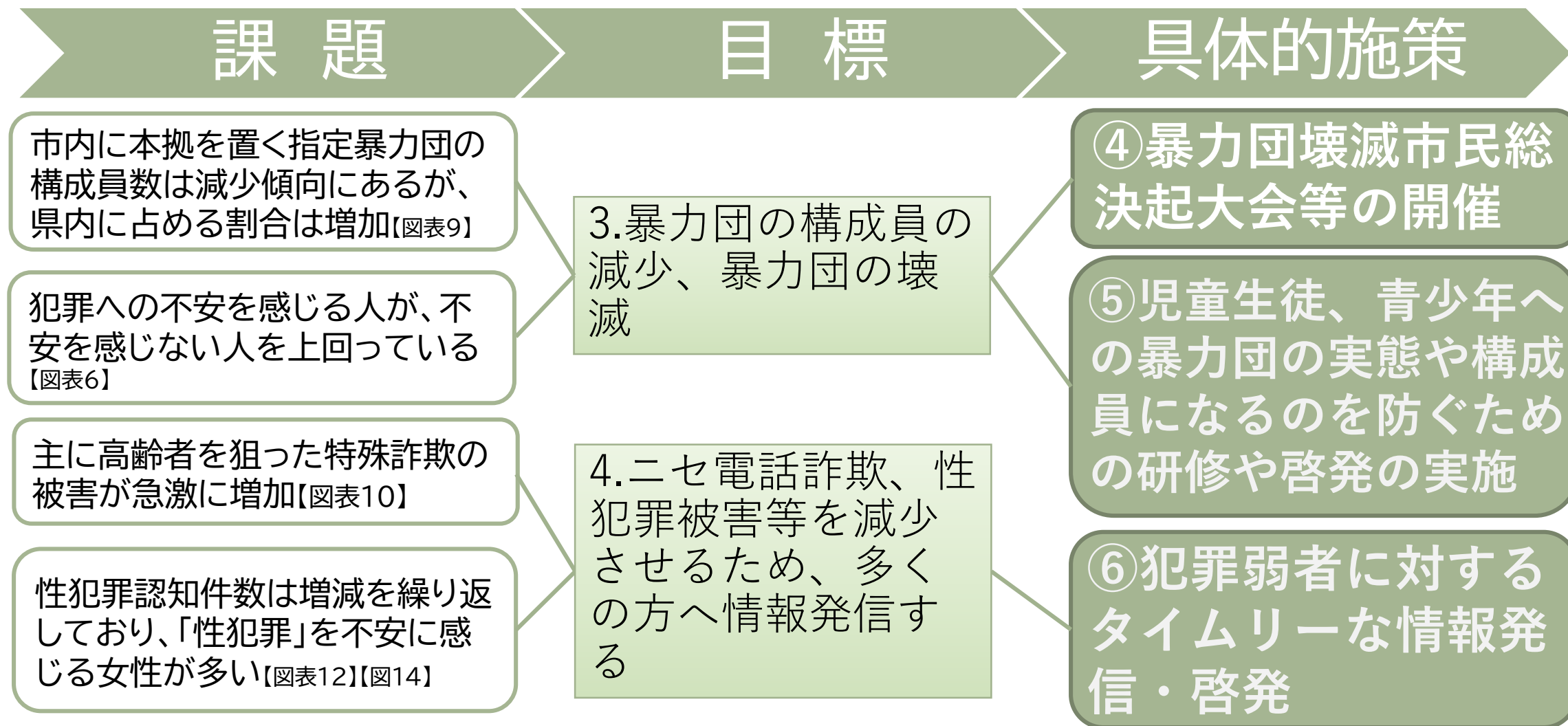


＜出展：セーフコミュニティ実態調査＞

4-1. 課題解決のための目標と具体的施策



4-2. 課題解決のための目標と取組



5-1. レベル別の対策

目 標	対 策			
	分類	国県レベル	市レベル	地域レベル
1.「自転車盗」認知件数の減少	教育・啓発		街頭キャンペーン、出前講座等	地域にける注意喚起、ツーロックの実践
	規制	各種法令による規制	法や制度の周知	制度の理解、法令順守
	環境整備		自転車駐輪場の整備等	
2.「街頭犯罪」認知件数の減少	教育・啓発		出前講座等	自主防犯活動への参加
	規制	各種法令による規制	法や制度の周知	制度の理解、法令順守
	環境整備		地域防犯団体への支援等 防犯カメラ設置、地域への支援等	青パト導入 補助制度の活用による環境整備等

取組① 街頭キャンペーン、啓発

取組② 青パト活動への参加

取組③ 防犯カメラ、防犯灯の設置

5-2. レベル別の対策

目 標	対 策			
	分類	国県レベル	市レベル	地域レベル
3.暴力団の構成員の減少、暴力団の壊滅	教育・啓発	暴排先生（県警）等	出前講座等	暴力団壊滅、排除運動の実践
	規制	暴対法、県条例による規制	法や制度の周知	制度の理解、法令順守
	環境整備			
4.二セ電話詐欺、性犯罪被害等を減少させるため、多くの方へ情報発信する	教育・啓発		街頭キャンペーン、出前講座等	地域における注意喚起
	規制	各種法令による規制	法や制度の周知	制度の理解、法令順守
	環境整備			

取組④⑤ 暴追大会への参加、啓発
暴力団排除の取組

取組⑥ 情報発信、啓発

6-1. 具体的施策の紹介・成果

取組① 自転車ツーロックの推進



学生ボランティアや自転車商組合等も参加
交通安全対策委員会とも連携して実施

街頭キャンペーンなどにより、
ツーロックの安全性等を周知
自転車利用者に実践を促す



取組① 自転車ツーロックの推進

指標	指標内容	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
活動	駐輪場や商業施設などでの啓発活動回数	14回	18回	5回	2回	2回
短期	ツーロックの実践状況【アンケート】	45.1%	32.6%	28.9%	未実施	未実施
中期	久留米市は治安が良いと思う人の割合【市政アンケートモニター】	67.7%	74.8%	75.2%	未実施	75.8%
長期	自転車盗の認知件数【警察統計】	584件	483件	544件	279件	298件

6-2. 具体的施策の紹介・成果

取組② 青パト活動の充実・連携強化

2004年から推進してきた、
青パトによる防犯パトロールが
現在は市内全域で実施！



地域を見守る青パト



※6



取組② 青パト活動の充実・連携強化

指標	指標内容	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
活動	青パト活動を行う校区数	40校区	41校区	44校区	45校区	45校区
短期	地域の防犯活動に参加したいと思う人【アンケート】	56.2%	53.3%	49.2%	未実施	45.4%
中期	防犯パトロールの連携団体数	46団体	47団体	51団体	52団体	52団体
長期	街頭犯罪の認知件数【警察統計】	1,141件	838件	999件	508件	567件

6-3. 具体的施策の紹介・成果

取組③ 安全・安心感を高めるための地域環境の整備



街頭防犯カメラ

地域や団体、関係機関が連携
それぞれの役割に応じた環境整備で
危険因子を取り除く



防犯灯

取組③ 安全・安心感を高めるための地域環境の整備

指標	指標内容	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
活動	①防犯灯設置費補助件数 (市補助事業)	1,636件	1,560件	1,402件	1,057件	798件
活動	②街頭防犯カメラ設置 補助台数 (市補助事業)	15台	17台	17台	14台	10台
短期	この2～3年で治安が良くなったと思う人の割合 【アンケート】	45.4%	40.8%	45.1%	未実施	42.8%
中期	久留米市は治安が良いと思う人の割合【アンケート】	67.7%	74.8%	75.2%	未実施	75.8%
長期	街頭犯罪の認知件数 【警察統計】	1,141件	838件	999件	508件	567件

6-4. 具体的施策の紹介・成果

取組④ 暴力団壊滅市民総決起大会等の開催

暴力団壊滅市民総決起大会
毎年6月開催 約1,500人参加



地域社会全体で暴力団の壊滅を目指す
小学校区単位での活動など、日常生活に
根付いた根気強い活動を展開

総決起大会及びパレード
毎年12月開催 約2,000人参加



校区での暴追大会、パレード



取組④ 暴力団壊滅市民総決起大会等の開催

指標	指標内容		2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
活動	開催数		2回	2回	2回	1回	1回
短期	参加者数	6月開催	1,500人	1,500人	1,500人	0人	0人
		12月開催	2,000人	2,000人	2,000人	31人	160人
中期	暴迫の取り組みを行なっている校区数		41校区	42校区	42校区	41校区	41校区
長期	市内の暴力団の構成員数		430人	420人	390人	370人	320人

6-5. 具体的施策の紹介・成果

取組⑤ 児童生徒、青少年への研修や啓発の実施



小学校での防犯講話

小学・中学・高校生へ暴力団関連の研修・啓発実施することで、暴力団構成員になるのを防ぎ、暴力団の弱体化を図る



広報紙（学生向けの啓発）掲載

取組⑤ 児童生徒、青少年への研修や啓発の実施

指標	指標内容	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
活動	防犯教育活動を行なった学校数	128校	150校	109校	87校	110校
短期	不良行為少年補導数	2,214人	1,237人	1,234人	1,066人	947人
中期	市内の刑法犯少年 検挙・補導数	101人	100人	67人	56人	53人
長期	市内の暴力団の構成員数	430人	420人	390人	370人	320人

6-6. 具体的施策の紹介・成果

取組⑥ 犯罪被害者に対するタイムリーな情報発信・啓発



出前講座や啓発チラシをはじめ、あらゆる機会を通じた情報発信被害に遭わないための行動を呼びかけ



取組⑥ 犯罪被害者に対するタイムリーな情報発信・啓発

指標	指標内容	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
活動	啓発活動・出前講座回数	73回	87回	67回	9回	26回
短期	この2～3年で治安が良くなったと思う人の割合【アンケート】	45.4%	40.8%	45.1%	未実施	42.8%
中期	久留米市は治安が良いと思う人の割合【アンケート】	67.7%	74.8%	75.2%	未実施	75.8%
長期	①二セ電話詐欺被害件数（阻止件数）【警察統計】	26件 (48件)	18件 (34件)	16件 (20件)	11件 (24件)	22件 (62件)
長期	②性犯罪認知件数【警察統計】	19件	29件	17件	14件	6件

7. コロナ禍の工夫

SNS等を活用した新たな啓発活動

- ・啓発動画を作成し、YouTubeやLINEに投稿し、広く啓発
- ・啓発動画を市内各所のモニターで放映



二セ電話詐欺の対策強化

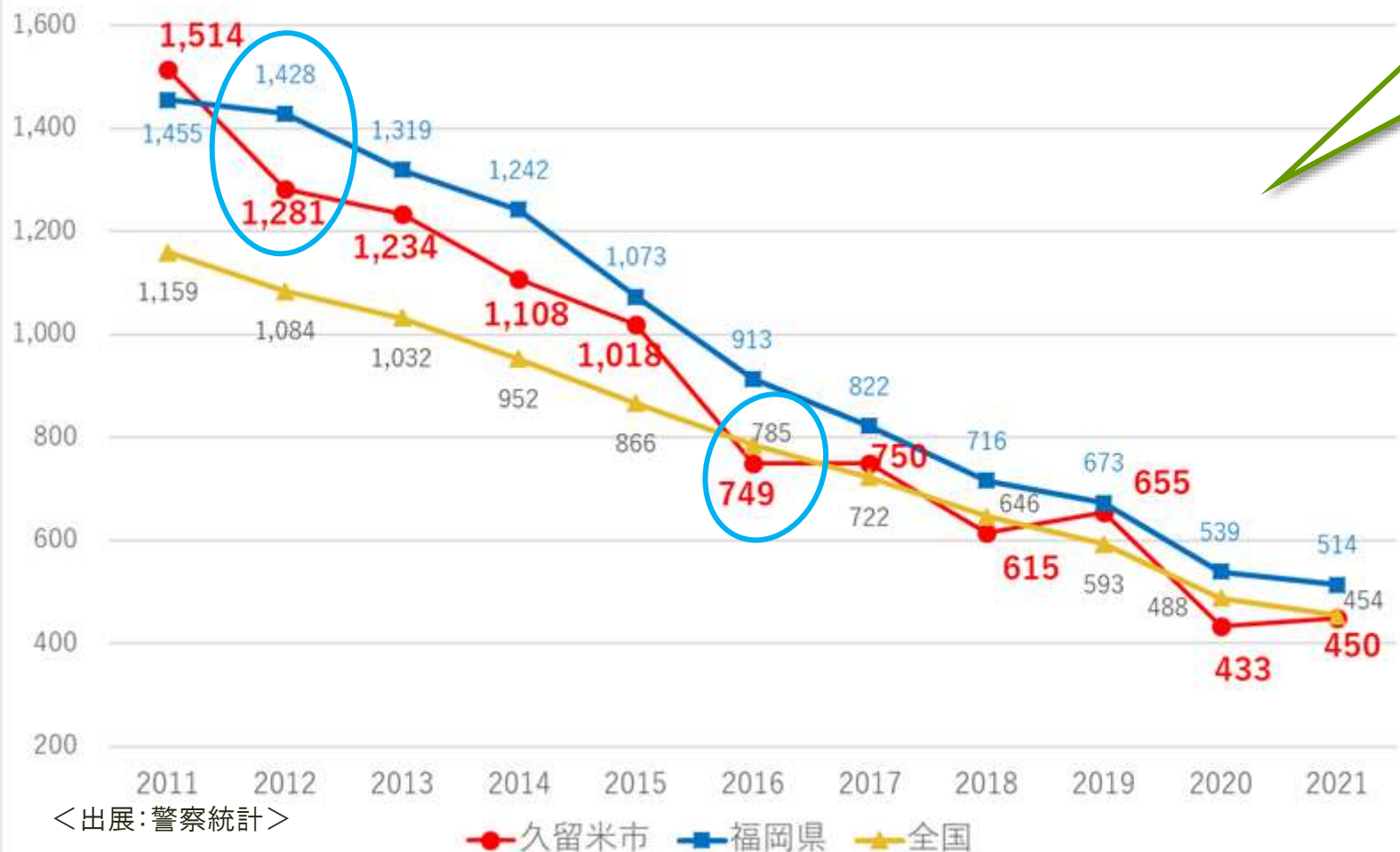
- ・コロナ禍での在宅時間の増加を背景に急増している二セ電話詐欺対策として、警察や校区まちづくり連絡協議会、民生委員児童委員協議会等と連携し、実施。

青パトを活用した注意喚起

日常的な訪問での声掛け

8-1. 取り組みによる全体的な成果

(件) 【図3】一般刑法犯認知件数の比較(10万人あたり)



一般刑法犯認知件数は減少！
2011年(取り組み開始時)の約30%
国・県より減少率が高い！

2012年 県の水準以下に

2016年 国の水準以下に

市内の内訳を見ると…

街頭犯罪認知件数も減少！
2011年の約20%

自転車盗の認知件数も減少！
2011年の約30%

8-2. 取り組みによる全体的な成果

全国暴力追放 功労団体表彰受賞

「暴力団壊滅市民総決起大会」などの
地域社会が一体となった、継続的な暴
追活動が評価。



9. 再認証取得後の変化・気付き

防犯活動の充実

青パトによる防犯パトロールが市内全域で実施される

交通安全分野、学校の安全分野、高齢者のとの連携強化

防犯カメラ、防犯灯の設置の拡大

自主防犯活動団体の活動開始

住民活動による暴力団事務所の撤去

防犯活動の支援の拡がり

企業から青パトの寄贈

企業から車両用の安全警報装置の寄贈を受け、青パトに設置

NPO法人から学校防犯システム「ツイタもん」の設置支援



10. 課題・今後の対応

市民参加の拡大

防犯活動 実践者・参加者の固定化・高齢化

➡ **気軽に参加できる仕組みの工夫が必要**

情報発信の工夫

一般刑法犯の認知件数は減少しているが、犯罪に対する不安感は変わらない

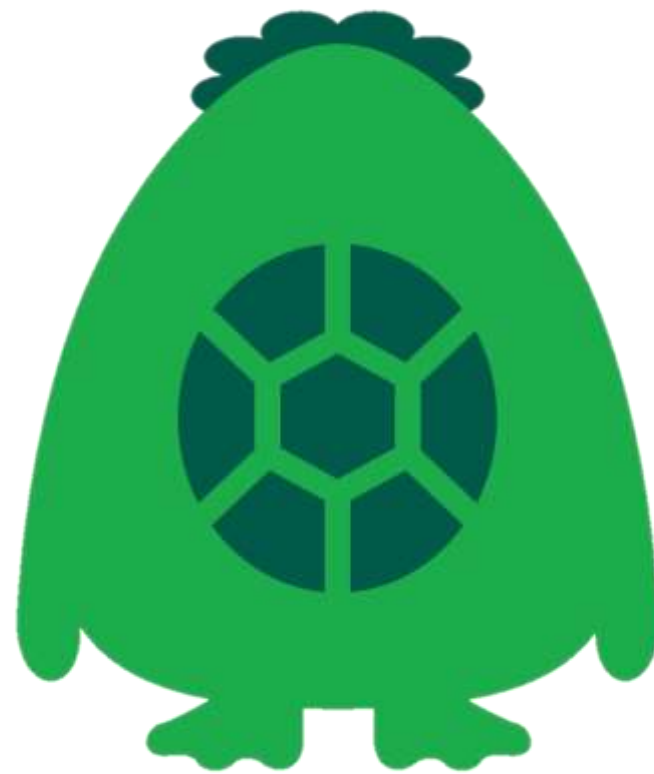
➡ **防犯の取組やその成果について、広く市民に周知する必要がある**

高齢者は、ニセ電話詐欺など、巧妙化する新たな犯罪への不安感が高い

➡ **今後もタイムリーな情報発信を継続する必要がある**



ご清聴ありがとうございました。



防犯対策委員会

用語集

※1 一般刑法犯

刑法犯(刑法及び暴力行為等処罰法、組織犯罪処罰法などの法律に規定される犯罪)全体から自動車運転過失致死傷罪など、交通関係の業過(交通事故によって人を死傷させた過失犯)を除いたもの。

※2 街頭犯罪

一般刑法犯のなかで、身のまわりで発生しやすい10の犯罪の総称

- ・自転車盗
- ・オートバイ盗
- ・自動車盗
- ・侵入盗
- ・車上狙い
- ・部品狙い
- ・自販機狙い
- ・路上強盗
- ・ひったくり
- ・強制わいせつ

用語集

※3 割れ窓理論

「1枚の割れたガラスを放置すると、たちまち街全体が荒れ、犯罪が増加」
軽微な犯罪も徹底的に取り締まることで、凶悪犯罪を含めた犯罪を
抑止できるとする、犯罪理論。

※4 暴力団

暴力あるいは暴力的脅迫によって自己の私的な目的を達しようとする
反社会的集団。
なかでも、一定の要件を備えた反社会性の強い団体:「指定暴力団」

用語集

※5 ニセ電話詐欺

面識のない不特定多数の者に対し、電話やメールなどの通信手段により対面することなく、被害者から現金をだましとる詐欺。

4種類の「振り込め詐欺」のほか、それに類似する多くの手口が存在する。

【振り込め詐欺】

- **オレオレ詐欺**

親族や警察官等を装い、金銭借用や被害防止のためと称して、銀行口座に振り込ませるもの。
最近では、被害者と対面して、現金やキャッシュカードなどを受け取る手口も見られる。

- **還付金詐欺**

税金や医療費などの還付を装うもの。

- **架空請求詐欺**

郵便や電子メールなどにより、架空の事実を口実とした料金請求文書を送付するもの。

- **融資保証金詐欺**

実際に融資する意思がないにもかかわらず、融資する旨の文書等を送付して、保証金等の名目で現金を振り込ませるもの。

用語集

※6 青パト

青色の回転灯を装備したパトロール車。
主に地域のボランティアを中心とした自主防犯団体により運行される。
一般車両への回転灯装備は法令で禁止されているが、全国の犯罪認知件数が2002年・2003年に戦後最多となり、自主防犯パトロールの機運が高まったことから、2004年に規制が緩和され、警察から適正にパトロールを行うことができると証明を受けた団体については、青色の回転灯を装備した公道走行が可能になった。
夜間の地域巡回や登下校時における子どもの見守り、犯罪多発エリアの警戒など、地域の実情に応じたパトロールに活用されている。